

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項等
司会	<p>○開会のことば</p> <p>本日、委員全員が出席のため、委員会成立である。</p> <p>1 調査・検討（進行 委員長）</p> <p><b>（１）不登校児童生徒が学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けている場合の指導要録上の出欠の取扱いについて</b></p>
事務局（大津）	<p>資料について前回からの変更点について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 ページ 文部科学省の調査結果が公表されたため、数値を更新した。</li> <li>・ 2 ページ （長期欠席含む）を追記した。文科省が示す不登校児童生徒の定義を目安とするが、年度をまたぐ場合もあるため柔軟に対応できるようにした。 本ガイドラインにおける長期欠席、不登校の説明を追記した。</li> <li>・ 3 ページ 民間施設について1年以上の活動実績としていたが、限定的表現ではないという意見があったため、項目を示し、「いずれかを満たすこと」に変更した。</li> <li>・ 4 ページ 学校と民間施設が書面等で定期的に情報交換を行う頻度について「月1回程度」と明記した。</li> <li>・ 6 ページ 自宅における学習時間の目安を示していたが、限定的な条件となる可能性があるとの意見があったため、様式を作成し、「校長と保護者が学習計画、報告を共有する。」に変更した。 これによって校長が本人の実態把握をするとともに、保護者や本人との面談も実施しやすくなる。</li> <li>・ 8 ページ 様式の内容確認（時間、振り返り、学校確認欄等） 原本は保護者、コピーを学校が保管する。</li> </ul>
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質問、意見があればお願いします。</li> </ul>
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガイドラインは保護者にも提示できるのか。</li> </ul>
事務局（大津）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提示できるように進めていく予定である。</li> </ul>
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分量も多いため、そのままというより概要を示す形がよいかもしれない。</li> </ul>
井浦副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 ページの3は表に示されていて分かりやすい。「指定する方法」とはどのような内容なのか。表以外に何かあるのか。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>表以外のものという意味ではなく、指導要録のどこに記載するかということである。学務課において、教育委員会として提示する予定である。</li> </ul>
村田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間施設のガイドラインについて、施設がこれに沿っているかを確認する者は誰か。教育委員会が統一して確認するのか、それとも各学校で民間施設を確認することになるのか。ハード面の把握は、各学校ではなく、一か所で集約したほうがよいと思う。学校規模によっては、対応できる状況に差が出てくる。</li> <li>家庭学習のシートを民間施設に通っている児童生徒にも適用してもいいのではないかと。民間施設と学校がやりとりするシートがあるとよい。</li> </ul>
事務局(大津)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育センターでは関係民間施設に訪問し、その際、設立年月日や職員などについて確認している。今後、情報を取りまとめ、学校に情報を提供できるようにしていきたいと考えている。また、民間施設からは、「学校に向いて説明します」という声が多くあった。</li> <li>様式活用については、民間施設の考えにもよる部分があるが、民間施設には、月1回程度書面にて情報を提供してもらうように依頼していく。</li> </ul>
井浦副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設確認の主体は、教育センターでよいか。具体的な流れはどのように考えているのか。学校としては、保護者や本人との関係を大切にするために、民間施設の情報を直接細かく聞くのは避けたい。教育センターから情報をもって、保護者と相談していきたい。</li> </ul>
事務局(小高)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育センターでもどのよう施設か把握する必要があるため、教育センターでも情報を収集していく。</li> </ul>
事務局(大津)	<ul style="list-style-type: none"> <li>様式について、保護者の立場で意見をもらいたい。</li> </ul>
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰がどこを書くのか、分かりにくい。</li> </ul>
事務局(大津)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人が書けるとよいと思うが、保護者が書く場合もあると想定している。目標と振り返りは本人が書いてほしい。本人が書いた場合は、保護者が確認する必要があると考えている。</li> </ul>
波瀾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの程度の頻度でやりとりすることを想定しているのか。</li> <li>学習内容は学年相応の内容でなければならないのか、あるいは本人と保護者の判断で該当学年より下の学年の内容でもよいのか。</li> </ul>

事務局(大津)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、毎月作成・報告とするものである。</li> <li>・学習内容については、実態に即して作成することを考えている。そのため、教職員の関わりは重要になる。毎月、家庭訪問や学校での面談等で本人や保護者と学校が確認しながら作成することを想定している。</li> </ul>
井浦副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅等で ICT を活用した学びをしたいという話が出たら、学校は対応することになると思う。その際に、様式が使いにくい場合などは個に応じて変えても良いのか。</li> </ul>
事務局(大津)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様式は、学校と家庭がやりとりをするための1つのツールであり、本人の頑張りを認めるという部分から出席を認めていく方向である。様式は、基本的にはこの形でと考えているが、実態に応じて変更する必要は出てくるかもしれない。</li> </ul>
井浦副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様式の運用の部分で必要なものについては、教育委員会が学校や保護者に周知してほしい。</li> </ul>
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「様式」に「例」を追加するだけで、受け手の印象が変わると思う。「様式例」としてはどうか。</li> </ul>
村田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅における学習状況への対応については理解した。民間施設に通っている児童生徒については、どうか。施設で取り組んだ内容の確認はどのように行うのか。面談等を行う機会が失われないか。</li> </ul>
事務局(大津)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間に通っている児童生徒については、民間施設が作成する書面で確認する。現在、学校もこの書面で状況確認をしている。学校は、「書面が届いたよ」という形で面談等を行っていくと関わりを継続しやすいのではないか。</li> </ul>
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用する中で、気付きや必要な修正などが起きた場合、その都度、改訂していくことになると思うが、運用の見直しの目安の年数等はあるか。</li> </ul>
事務局(大津)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に年数に目安は設けていないが、学校や保護者からの問い合わせがあると思われるため、必要に応じて改訂を行っていく。</li> </ul>
遠藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 端末を活用して、オンラインで学校の授業に参加している場合と民間施設が提供する教材を活用する場合の2パターンが想定されると思う。どちらにもしっかりと対応できることが必要になる。</li> </ul>

事務局 (大津)	<p>(2) 校内支援体制の構築について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針を策定し、不登校対策コーディネーターから、各学校に周知されている。①と②について、基本方針の抜粋を参考に意見をいただきたい。</li> <li>・①については、不登校対策コーディネーターの役割についてである。核となる役割をどのように果たしていくとよいのか。</li> <li>・②について、該当児童生徒を多面的に理解するための専門職役割と、連携についてである。各学校で活用しているが、より効果的に活用してもらうために、市内に示していきたい。</li> </ul>
池田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校対策コーディネーターは、仕事がそれだけであれば、対応はできるが、学級担任や校務分掌を複数抱えていると厳しい。</li> <li>・またスクールカウンセラーは面談の予約もとれない状況である。可能な限り来校回数を増やして、相談を受けてほしい。</li> </ul>
遠藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校対策コーディネーターは、他の業務を抱える中で対応が難しい部分がある。スクールソーシャルワーカーについては、学校のケース会議に参加してもらうことは可能か。</li> </ul>
事務局 (大津)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールソーシャルワーカーは、校内のケース会議に参加し、状況把握の上で助言等を行うことができる。</li> </ul>
井浦副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校対策コーディネーターを作った理由は何か。生徒指導主任、教育相談主任が兼務することが想定されており、新しい役割を作る必要があるのか。不登校対策を重点的に行うのであれば、兼務ではない方がよい。生徒指導部会、教育相談部会は、週1回程度実施している。重なる部分はあるが、兼務させずにそれぞれの立場から意見を出し合った方がより良い方策が出るのではないか。生徒指導主任、教育相談主任は校務を多少配慮している。不登校対策コーディネーターは兼務しない方がよい。</li> </ul>
事務局 (瀧澤部長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校の不登校対策の中心を担うコーディネーターを明確に位置付けたいという意図がある。しかし、分掌が増えてしまうという側面もある。教育相談主任と兼務が想定されたため、「兼務」という文言を入れた。</li> <li>・中学校は、週1回会議をしているが、小学校は月1回のところが多い。教育相談体制、不登校対策体制を整えるためにも、コーディネーターを明記する必要があると判断した。</li> </ul>
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターが全国的に広がる中で神奈川県は設置しなかった。その代わりに、教育相談と生徒指導を「教育支援」という形で</li> </ul>

遠藤委員	<p>まとめた。これらは会議が重複することが多く、大まかにとらえるためにこのようにした。学校の業務とどのように両立させるかがポイントになる。これまでの歴史も踏まえれば、教育相談や生徒指導をなくすことはできないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 ページの仕事の内容について、不登校対策コーディネーターの役割は、(1) ガイドラインの様式について保護者に説明したり、確認したりすることも担っていくのか。定期的に 1 回程度書面のやりとりを行う窓口もコーディネーターになるのか。</li> </ul>
事務局 (大津)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校長の指示により窓口役となることは考えられる。全てをコーディネーターが行うことは難しいと思われるため、校内で分担していく必要が出てくる場合はあると考えられる。</li> </ul>
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コーディネーターにとって難しいこととしては、対応チームを組織して、本人や保護者と関わる人が中核となる中で状況を把握することや該当する児童生徒によって、対応は変わってくるものが挙げられる。</li> </ul>
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者との窓口は、保護者と関係の深い教職員と明記されている。しかし、これをやるとすれば時間がかかるし、難しい部はあると思う。不登校対策コーディネーターを設置したことが、不登校の現状改善のきっかけになれば良いと感じた。</li> </ul>
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校でケース会議を行う場合、児童生徒一人一人にどれぐらい時間をかけているのか。</li> </ul>
井浦副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続ケースであれば、前回からの変化などを共有すればよいため、10 分程度で行える。単発ケースだと 50 分程度の会議で深く話し合えるのは、3 人ぐらいだと思う。</li> </ul>
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議時間短縮するためにセブクロス法を活用するとよい。これであれば 1 ケース 10 分程度で実施が可能である。出席者それぞれの立場から「〇〇に～する」「〇〇は～する」という案を出す。その中から優先順位をつけていく。「よかったねカンファレンス」にも活用できる。</li> </ul>
吉永委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 ページ (3) エについて、不登校の原因をとしてヤングケアラーであることも考えられる。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーだけでなく、「等」の追記を検討してほしい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職として、カウンセラーやワーカーがいる。「関係機関との連絡調整」は「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連絡調整」はイコールではない。スクールソーシャルワーカーの役割は、アセスメントが大きなウエイトを占める。ニーズを的確に把握し、協働体制を構築するとともにそれ効果的に実施できるようにしていく。ウとエを連携させていく役割を担うべき人材である。</li> <li>・教員はスクールソーシャルワーカーと連携するのではなく、一緒にアセスメントを行い、ニーズを明らかにしていく。不登校対策コーディネーターが設置し、学校によって違った取組が出てきていると思う。「アセスメント→プラン→実施」の流れになる。これらを資料の校内支援体制例の図中に落とし込めるとよい。</li> </ul>
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オの小中連携した取組の推進についての具体的なイメージはあるのか。</li> </ul>
事務局(大津)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区での不登校対策につなげていきたい。小学校のコーディネーターと中学校のコーディネーターが集まって連携していけるとよい。すでにコーディネーター研修会では情報交換・協議を実施しているが、今後も継続する予定である。また、長期休業中に行われることが多い小中連携会議等での議題の1つとしても想定される。</li> </ul>
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県での取組では、1学年だけ個々に支援シートを作成し、専門家のコメントをつけて、申し送りをした。1学年を重点的にを行い、その取組が他学年に広がっていくことで大きな成果となった。</li> <li>・成果を上げる学校とそうでない学校の差は、個々の支援内容を学年全体で共有、つまり教職員1人1人がそれを見たか、読んだかという点である。小中連携は、しっかりと取り組めば成果は出る。</li> </ul>
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(3)ウのカンファレンスについて、企画運営の例として「よかったねカンファレンス」を提示してもよいのではないか。中学校区だけでなく、他校の事例を共有できるようになると良い。</li> </ul>
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が行う研修会で、好事例を紹介し周知していくと良い。教育委員会が、発信役を担う。</li> </ul>
村田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校規模は、大きな差があるため、実態に応じて、工夫しながら取り組んでいくことが求められる。</li> </ul>

小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>新潟県には、不登校対策加配がある。不登校の多い学校に配置するのではなく、不登校を減らした学校に配置すべきと話したことがある。不登校が減るということは、別室登校の児童生徒が増えるということ。そこに対応する教職員を確保する必要がある。</li> </ul>
石井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>さわやか相談室相談員が小学校訪問した際に、教育相談部会に参加できると良い。小学校に行ったときに、予約が入っていない、何もやることがないということがある。もっと積極的な活用について考えてほしい。</li> </ul>
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>本日は、それぞれの視点から、御意見いただいたことに感謝する。</li> </ul>
	協議終了
事務局（大津）	<p>2 諸連絡</p> <p>令和6年度上尾市不登校対策推進委員会の流れについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度以降の検討事項4つ</li> <li>スケジュールの確認・次回の議題</li> <li>次回予定の連絡</li> </ul>
司会	○閉会のことば